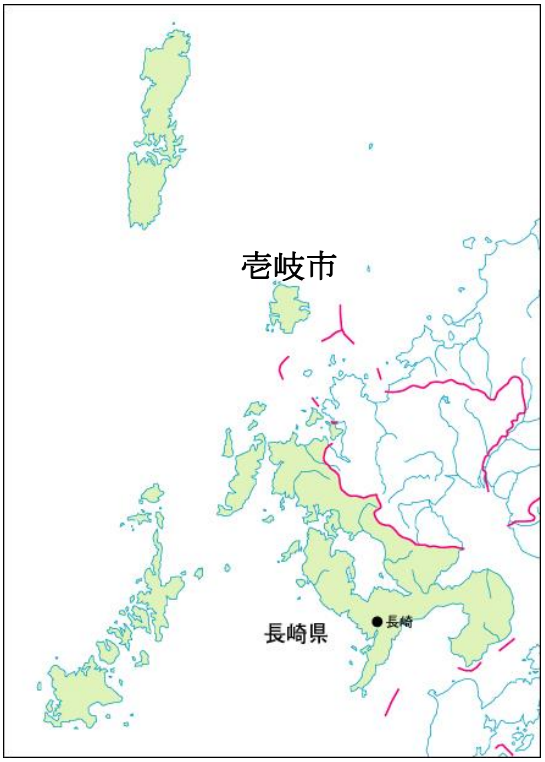
壱岐の農業

- □ 管内農業の概要
- □ 主要品目の生産振興
- □ 担い手の育成
- □ 壱岐産地マップ

令和4年2月版

壱岐振興局農林水産部　農業振興普及課

管内農業の概要



		壱岐地区	県全体
世帯数（戸）		10,002	560,720
	うち総農家数（戸）	2,280	33,802
	うち主業農家（戸）	302	6,620
総人口（人）		27,103	1,377,187
	うち農業就業人口（人）	1,994	34,440
販売農家戸数（戸）		1,500	21,304
	主業農家家数（戸）	302	6,620
	準主業農家戸数（戸）①	407	4,307
	副業的農家戸数（戸）②	791	10,377
	販売農家中６５歳以上の割合	68%	58%
自給的農家（戸）③		780	12,498
兼業農家等（戸）①＋②＋③		1,979	27,183
総面積（ｈａ）		13,942	413,232
	うち耕地面積（ｈａ）	3,450	46,300
	うち田（ｈａ）	2,200	21,200
	うち畑（ｈａ）	1,260	25,100
	うち森林面積（ｈａ）	4,908	218,249
耕地率（%）		25%	11%
水田整備率（%）		67%	58%
畑整備率（%）		3%	27%
荒廃農地面積（ｈａ）		195	3,568

※2015国勢調査及び農林業センサスより

壱岐市は平成16年3月に郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の合併により誕生した玄界灘に浮かぶ総面積139.42k㎡、総人口25,492人(R3.12月現在)の平坦な島で、対馬暖流の影響を受けて、比較的温暖な海洋性気候です。

耕地面積は3,450haあり、主に平坦地に2,200haある水田を主体に畜産と耕種を組合わせた土地利用型農業と一部で施設園芸が展開され、作目では農業産出額（令和2年度約57億円）の7割を占める肉用牛や300haを超える深江田原地区の大区画圃場整備を活用した水稲、麦、大豆、葉たばこ、飼料作物などの土地利用型作物をはじめ、施設園芸（アスパラガス、いちご、メロン）や露地野菜（ブロッコリー）、花き（小菊）などの複合経営が展開されています。水田の基盤整備率は67%と県平均の58%より高いものの、畑の基盤整備率は3%と低く、農地の基盤整備や排水性改善が課題となっています。

また、農家戸数が減少する中、販売農家1,500戸のうち、主業農家は302戸（20%）と県平均31%より少ない一方で、65歳以上の農家割合は68%と県平均58%より高齢化がいち早く進んでいたため、集落営農組織育成が進められており、現在は42組織（県全体の約4割）が設立され、うち31組織は法人化に至っています。

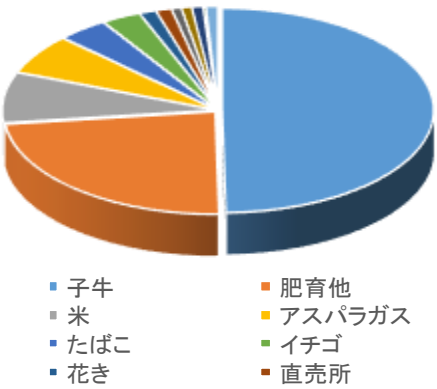
集落営農組織の一部では雇用型経営も行われていますが、担い手が不足しており、高収益作物の導入が求められています。

作付け状況及び飼養頭数　　単位:ha、頭

年度・年	水稲	麦、大豆	葉たばこ	飼料作物	アスパラガス	メロン	いちご	ブロッコリー	小菊	肉用牛(繁殖雌牛)
2015	1,110	227	72.6	1,554	14.2	5.1	4.8	13.0	7.8	9,725 (5,847)
2020	878	263	50.7	1,678	13.6	3.3	3.1	12.0	7.5	10,707 (5,982)

※壱岐市農協、西九州たばこ耕作組合、国及び県畜産課資料より

地域農業産出額　57億円（R2）



畜　産（肉用牛）

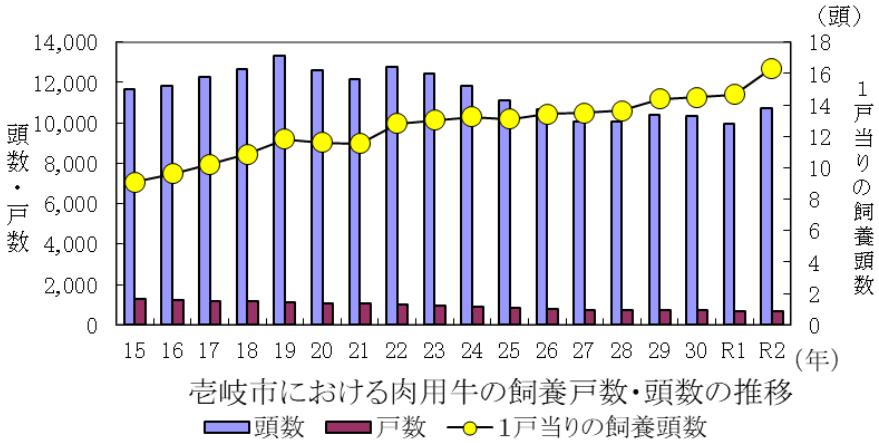
肉用牛は、繁殖経営が中心で飼育頭数は令和2年3月末時点で7,438頭（うち繁殖牛5,982頭、肥育牛1,456頭）、令和2年度の肉用牛販売額は41.9億（子牛28.5億円、成牛4.1億円、肥育牛9.2億円）と地域農業販売額の過半を占める基幹作目となっています。

特に繁殖、肥育の地域内一貫体制と「壱岐牛」ブランドの確立を積極的に推進し、「壱岐牛」は平成26年4月25日に地域団体商標登録に至っています。

しかし、高齢化、担い手不足による飼養戸数ならびに繁殖牛頭数が減少傾向で推移していましたが、支援事業や制度資金等の有効活用、肉用牛ヘルパー組織やキャトルステーション（CS）やキャトルブリーディングステーション（CBS）等の外部委託施設活用による労力低減などにより、近年は増頭に転じています。

また、島内で発生している焼酎粕を飼料に活用するエコフィードを推進し、生産コスト低減と地域資源の有効活用を更に進めています。

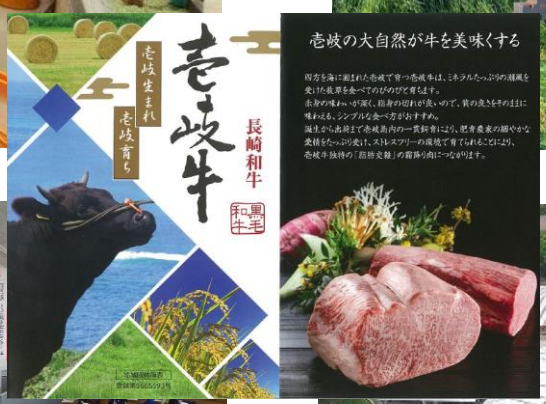
今後はマルチワーカー、自給飼料生産の作業受委託といった労力支援システムの構築、JA直営牧場を核とした受精卵移植やスマート畜産、高品質な飼料生産など新技術の検証を行いながら、地域肉用牛生産基盤の一層の強化を図っていきます。



壱岐市における肉用牛の飼養戸数・頭数の推移

定休型ヘルパー組合

イタリアンライグラス（ヤヨイワセ）収穫



定期子牛せり市

CBS（キャトルブリーディングステーション）

農 産 （ 水稲 ・ 麦 ・ 大豆 ）

○水稲

水稲は、壱岐の基幹作物の一つで、令和2年産の栽培面積は896ha、JA壱岐市の令和2年度販売額は456,475千円となっており、県内有数の米産地です。JA壱岐市第9次営農振興計画では令和12年までに販売額10億円を目指しています。

品種は、高温耐性に優れる「つや姫」、「にこまる」及び「なつほのか」の導入が進んでいます。

早期水稲の「つや姫」は、特別栽培農産物として、平成24年度から本格的に栽培を始め、令和2年度は170haが作付けされています。

普通期水稲の「にこまる」は、平成21年度から栽培を始め、令和2年度は269haが作付けされています。また、平成30年度から普通期水稲「なつほのか」の栽培が始まり、令和2年度は79haまで栽培面積が拡大しました。早生の特性を活かして、水田裏を有効利用し高収益作物を栽培するなど経営効率の高い輪作体系の確立を目指しています。

壱岐産の水稲高温耐性品種

「つや姫」の生育状況

○麦

麦は、水田裏作を中心として、壱岐焼酎原料用大麦が生産されており、管内の実需者との交流を図りながら、ニーズに応じた生産量・品種の確保に取り組んでいます。

生産面積は増加傾向で令和2年産は183haとなっています。

平成30年産から従来の品種よりも収量・品質が期待される「はるか二条」に全面転換しています。

大麦の収穫作業

大豆の摘心作業

○大豆

大豆は、21世紀型圃場整備地区を中心に令和2年産の生産面積は51haとなっています。

「壱州豆腐」や納豆など地域の加工品にも利用され、地産地消の推進にもつながっています。

安定生産を目的として摘心技術等の新技術を導入しており、生産量の増加を目指しています。

野　菜

○いちご

昭和62年から栽培が始まり、令和2年度の部会員は30名、栽培面積は3.1ha、販売額は約1億3千万円となっています。

品種は、「ゆめのか」が栽培面積の約6割を占め、その他「さがほのか」と「恋みのり」が作付けされています。

環境制御技術や簡易高設ベンチ栽培の導入など収益性向上と労力軽減、トレーニングハウスを活用した新規栽培者の確保等による産地振興を進めていきます。

「ゆめのか」の出荷状況

アスパラガス圃場と出荷調整作業

○アスパラガス

平成元年からハウス栽培が始まり、令和2年度の部会員は73名、収穫面積は13.7ha、販売額は約3億7千万円となっており、単収は14年連続の県内トップの成績を収めています。

農協集荷場に平成11年から計量結束機を、平成14年から自動選別切揃機を導入し、選果作業の省力化を図ることで産地規模の拡大につなげてきました。

今後、法人向けブリッジ型ハウスやトレーニングハウスの活用による新規参入者の増大、省力化技術の導入による高レベルの安定生産を目指した産地づくりに取り組みます。

○メロン

糖度が上がりやすい土壌条件を活かし、昭和60年からアムスメロン、昭和62年からアールスメロンの栽培が行われています。

令和2年度の部会員は35名、栽培面積は3.1ha 、販売額は約3,900万円となっています。

全体の約6割以上が宅配便などの贈答用に向けられており、特にアムスメロンは壱岐の初夏を代表する特産品となっています。

アムスメロン圃場

ミニトマト圃場とパック詰め商品

○ミニトマト

平成23年からアムスメロンの後作ハウスや遊休ハウスを活用した抑制栽培が始まっています。

令和2年度の部会員は20名、栽培面積は1.1ha、販売額は約1,054万円となっています。

全量農協共選のため、生産者の調整出荷作業が大幅に軽減されており、また省力化品種の技術確立と普及により、産地規模拡大を図っています。

○ブロッコリー

平成13年度に1.3haで始まり、令和2年度の部会員は32名、栽培面積は11ha、販売額は約1,900万円です。

平成22年度から氷詰め出荷、平成27年度から全量共同選果を開始する一方、契約取引に取り組み、安定した単価を確保しています。今後は、契約割合の拡大と加工業務用の取り組みを進め、出荷製品率を高めます。

水田裏作での栽培では、排水対策の徹底による単収向上と経営リスク回避のための複数作型の導入を図り、また作業受託体制を充実させ、新規栽培者に取り組みやすい環境を整えています。

鮮度保持のため、氷詰めで出荷

春カボチャの生育状況

○カボチャ

春と秋の2作型があり、春カボチャが主な作型になります。令和2年度の部会員は112名、栽培面積は17ha、販売額は約4,400万円です（春秋作合計）。

露地野菜の主力品目して栽培されており、今後は法人等新規栽培者を育成し、水田活用品目として収穫隊などの労力支援体制の構築や鉄コンテナ出荷などの出荷形態の簡素化を図り、産地拡大を図ります。

○ニンニク

大正時代から栽培が始まり、昭和29年頃に農事試験場壱岐分場で壱岐独自の品種「壱州早生」が選抜されました。ピーク時には40haの栽培面積を誇っていましたが、令和3年産（令和2年度）の部会員は24名、栽培面積は1.7ha、販売額は約360万円となっています。

今後は水田活用品目として、排水対策と土壌改良を徹底し、機械化体系の確立や乾燥調整施設の整備とあわせた共同選果に取り組み、省力化や作付け推進を図ります。

また、産地復活に向けて、品種選抜や島内種球生産体制整備による種子の安定供給や契約販売の確保に努め、市場評価の向上を図ります。

収穫機によるにんにくの収穫作業

花　き

○小菊

平成4年から栽培が始まり令和3年度の小菊専門部会員数は35名、栽培面積は7.5ha、販売額（令和2年）は約5,570万円です。露地品目として作付けを推進してきましたが（出荷期間：5月～2月）、近年は施設栽培による高品質定期定量出荷を目指しています。

最需要期である、盆、秋の彼岸の出荷については、電照栽培の拡大を進めており、また品種が多いため、部会で奨励品種を定め8ha、6千万円を目指しています。

産地では若手リーダーの育成に力を入れており、「いきな小菊」のブランド確立、産地の維持発展に向け取り組んでいます。

小菊の現地検討会

小菊の施設電照栽培圃場

○施設草花

6名の部会員で、夏のひまわり、切り花、マリーゴールド、冬場のストック、キンギョソウ、ラナンキュラスを60aで栽培中です。

花き市場、先進産地、消費者からの情報を集め、新たな品目、新品種の試作・導入に積極的に取り組んでいます。

ストックの現地検討会

遠赤外灯によるストックの促成栽培

果　樹

昭和50年代の温州みかんの価格低迷をきっかけに、ゆず栽培が盛んに行われるようになり、現在約5haの面積が栽培されています。県内で唯一のゆず産地であり、壱岐の特産品である「ゆずこしょう」、「ゆずポン酢」、「ゆべし」などの原料として活用されています。現在、ゆず生産者の高齢化が進んでおり、施設野菜農家とのマッチングなど産地継承を進めています。

また、JA壱岐市柑橘部会（部会員41人）で、温州みかんや中晩柑が栽培され、「麗紅」、「西南のひかり」などの食味が優れた中晩柑品種の導入を推進しています。

壱岐の特産果樹「ゆず」

中晩柑推奨品種「麗紅」

葉 た ば こ

葉たばこは、肉用牛、水稲に次ぐ基幹作目です。
令和2年度の栽培者数は24戸、栽培面積は50ha、販売額は約2億2千万円となっています。
AP－1など省力型作業機械の導入や受委託共同乾燥施設への乾燥作業を委託することなどにより作業負担を軽減し経営規模の維持に努めています。

AP－1による葉たばこの収穫

地域ビジネスの展開

管内には「農産物直売所」（有人）が5か所あり、島内で生産された新鮮な農産物等の直売活動や消費者との交流活動が積極的に行われ、地域における地産地消の拠点となっています。
JA壱岐市では、福岡県内の量販店に産直コーナーを設置し、販路拡大を図っています。
また、管内の農産加工所では、「いき壱岐納豆」や「ゆずの香」、「ゆべし」等のゆずの加工品が商品化されており、壱岐ゆず生産組合は、平成26年6月に法人化し、長崎四季畑に4商品が認証される等、6次産業化にも意欲的に取り組まれています。
なお、令和3年度からばれいしょ「ながさき黄金」を活用したファストフードの開発に取り組んでいます。

「アグリプラザ四季菜館」（JA壱岐市）

まるごとゆず マーマレード　ゆず佃煮 ゆ べ し　ゆずこしょう

ゆず加工品

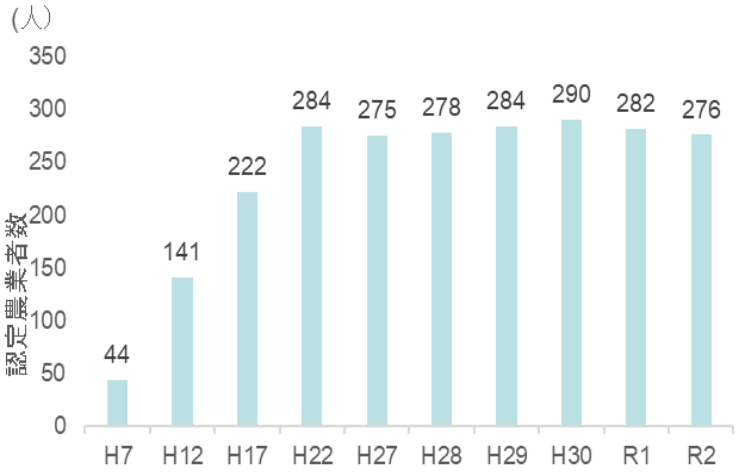
いき壱岐納豆

「ながさき黄金」のファストフード試作品

認定農業者の育成確保

壱岐市の認定農業者は令和3年3月末で276経営体となっています。

壱岐市では、認定農業者で構成する壱岐市認定農業者協議会を組織し、認定農業者自らの経営改善と会員相互のネットワークづくりのため、研修会や先進地視察など研鑽活動に取り組んでいます。



認定農業者数の推移(年度末)

集落営農組織の育成

平成29年4月に、JA、市、県が一体となって、集落営農組織や担い手を支援する、「壱岐市担い手サポートセンター」を設置し、毎週火曜日を相談日に設定し、あらゆる相談にワンストップで対応・支援する体制を構築しました。

特定農業団体である集落営農組織の法人化支援や、法人化後の経営発展に係る各種研修会の企画運営等を行っています。

令和3年4月現在、集落営農組織42のうち31組織が法人設立されており、関係機関と連携しながら、集落営農組織へは法人化に向けた推進や法人化した組織には運営面での支援を行っています。

また、未組織集落においても農地の現状を把握するグループワーク等を通じて今後も集落を維持発展させていくための集落対策を進めています。

集落リーダー育成塾の開催

集落座談会の実施

法人経営の多角化に向けた施設園芸団地への視察研修

大きな地図を使って集落の農地や高収益作物の導入に向けた作戦会議

新規就農者

壱岐市では、最近5か年で60名が新たに就農しています。他産業から農業に転職した方や県外からの移住者も多く、多様な人材が地域の担い手として活躍しています。

壱岐で就農を希望する方は、JAの研修事業を通して、就農に必要な栽培技術や農業経営のノウハウを事前に習得することが可能です。

そして、就農後はJA、市、県の機関による技術指導や経営改善支援等のフォローアップを受けることで、早期の技術向上や経営安定を目指すことができます。

新規就農者研修会

青年農業者

〇壱岐地区青年農業者連絡協議会

壱岐地区青年農業者連絡協議会は、壱岐市の青年農業者で構成され、共同プロジェクト活動や研修会、実績発表大会などを通じて、個々の経営改善および能力向上や地域農業の課題解決に取り組んでいます。

プロジェクト活動（農福連携によるエダマメ栽培）

活動実績発表

〇IFFの会（IKI Frontier Farmers）

IFFの会は、壱岐市の専業の若手農業者で構成され、プロジェクト活動や先進地視察などを通じて、技術向上や新たな知見の習得に努めています。

その他にも、保育園児等を対象とした農業体験交流会（芋挿し、芋掘り体験等）や地域行事への参加など、農業のPRや地域の活性化にも取り組んでいます。

農業体験交流会

〇壱岐牛研究会

壱岐牛研究会は、壱岐市の肉用牛後継者で構成され、会員の飼養管理技術の向上や経営改善を目的として活動しています。

子牛せり市後の勉強会や先進地視察研修、会員牛舎の相互巡回などを実施し、地域の担い手として地域農業の発展と「壱岐牛」の振興に取り組んでいます。

子牛せり市後の勉強会

壱岐産地マップ

壱岐振興局　農林水産部　農業振興普及課

〒811－5732　長崎県壱岐市芦辺町国分東触678－7

TEL:0920－45－3038、0920－45－3030

FAX:0920－45－3045